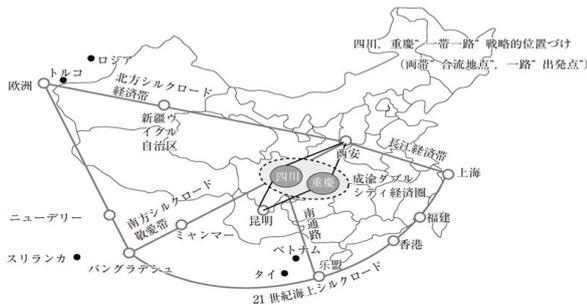


深圳レポート

成渝地区双城经济圈-未来を拓く二大都市のシナジー

現在、京津冀、長江デルタおよび粵港澳大湾区(グレートベイエリア)に次いで、中国の第四の成長の極となっているのが成(成都市の略称)渝(重慶市の略称)地区である。もし成渝地区が東部沿海の三つのエリアと連動できれば、中国经济総量の七割以上をカバーする菱形の経済空間が形成され、「北に京津冀、東に長江デルタ、南に粵港澳、西に成渝」という地域経済構造が構築される。



出所: 経済学論叢(中央大学)第63巻第5・6合併号(2023年3月)

政策概要

成渝地区双城经济圈が本格的に、国の後押しを受けたのは2020年からである。

2020年10月16日、成渝地区双城经济圈建設計画が中共中央政治局の審議を通過した。重点は重慶と成都の二都市の協同発展であり、地域の優位性を強調し、重要な経済および科学技術の中心、開放の新たな高地および住みやすい地となることを目指し、全国の高品質な発展を推進することである。

2021年10月、『成渝地区双城经济圈建設計画綱要』が中国共産党中央委員会と国务院によって発表され、地域が急速な発展の新段階に入ったことを示している。

2023年7月、習近平総書記は成渝地域の連携発展を推進し、西部を開放戦略の要所とし、新たな国際競争拠点として発展させることの重要性を強調した。また、西部の質の高い発展を支える重要な成長エリアと新たな推進力として位置づけた。

直近の2024年4月、重慶の会議において、成渝地区双城经济圈建設を推進し、より多くの影響力のある都市を発展させ、インフラの相互接続および公共サービスの共有を改善することが提起された。

成渝地区双城经济圈2023年経済発展のハイライト

2023年に、成渝地区双城经济圈は地域生産総値(GDP) 81,986.7億元を実現し、二年間で7兆元から8兆元に上昇した。この经济圈は全国および西部地区のGDPの比率がそれぞれ6.5%および30.4%を占め、前年よりそれぞれ0.1ポイントおよび0.3ポイント上昇し、経済成長率は6.1%に達し、全国を0.9ポイント、西部地区を0.5ポイント上回った。

指標	成渝地区双城经济圈①+② (億元)	伸び率 (%)	成都经济圈規模※① (億元)	伸び率 (%)	重慶经济圈規模※② (億元)	伸び率 (%)
地域総生産 (億元)	81,986.7	6.1	54,050.7	6.2	27,936	6.1
第一次産業付加価値	6,594.8	3.8	4,867.1	3.6	1,727.6	4.5
第二次産業付加価値	30,234.3	5.6	19,184.9	5.2	11,049.4	6.4
工業付加価値	22,989.4	5.6	14,954.1	5.5	8,035.2	5.8
第三次産業付加価値	45,157.6	6.8	29,998.6	7.3	15,159	6
固定資産投資 (農家を除く)	-	3.4	-	2	-	6.3
社会消費財小売総額 (億元)	37,587.7	8.9	23,820	9.1	13,767.7	8.6
金融機関の人民元預金残高(億元)	160,304.3	-	111,084	10.9	49,220.2	-
金融機関の人民元貸出残高(億元)	150,063.5	-	97,087.3	15	52,976.2	-

※①: 成=成都经济圈: 四川省の成都、自貢、瀘州など15の市

※②: 渝=重慶经济圈: 重慶市の中心城区および万州区、涪陵区、綦江区など27の区(県)と開州区、雲陽県の一部地域

地域経済のパフォーマンス

成都と重慶の経済パフォーマンス

- 成都の経済規模は22,074.7億元に達し、省全体の36.7%を占めている。
- 成都都市圏(成都市、徳陽市、眉山市、資陽市)の経済規模は27,845.3億元に達し、四川省全体の46.3%を占めている。
- 重慶都市圏(渝中区、大渡口区、江北区など)の経済規模は24,632.6億元に達し、そのうち重慶中心都市圏の経済規模は23,120.1億元で、重慶市全体の76.7%を占めている。

経済成長率と比較

他の経済圏との比較

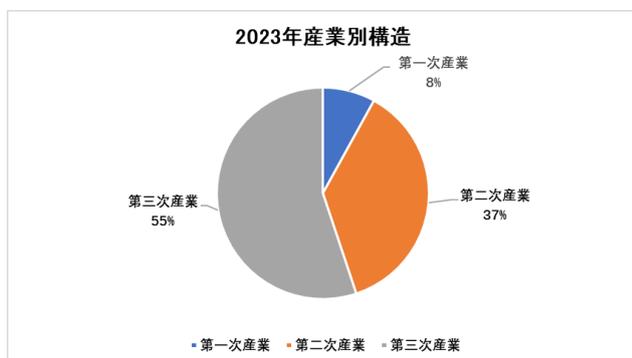
- 成渝地区双城経済圏の成長率は京津冀および長江デルタをそれぞれ1ポイントおよび0.4ポイント上回っている。
- 成渝地区双城経済圏の経済規模はグレーターベイエリアの約58.37%に相当する、前年より1.11ポイント減少している。また京津冀および長江デルタのそれぞれ78.5%および26.9%に相当し、前年よりそれぞれ1.1ポイントおよび0.3ポイント増加している。

地域	GDP(億元)	成・渝の占有率(%)	GDP成長率(%)	成渝と比較したGDP成長率の差(ポイント)
成渝地区双城経済圏	81,986.7	-	6.1	-
全国	1,260,582	6.5	5.2	0.9
西部地域	269,325	30.4	5.6	0.5
長江デルタ	305,045	26.9	5.7	0.3
京津冀	104,442	78.5	5.1	1.1
グレーターベイエリア	140,453.7	58.4	7.7	-1.1

産業構造と成長

産業構造

- 2023年、成渝地区双城経済圏の三次産業構造は8.0:36.9:55.1となっている。



- 産業別の付加価値は第一産業が3.8%、第二産業が5.6%、第三産業が6.8%それぞれ増加した。そのうち、第二産業と第三産業の増加値の成長率はそれぞれ全国平均を0.9ポイントと1ポイント上回った。

投資および消費市場

固定資産投資

- 2023年の成渝地区双城経済圏の固定資産投資は3.4%増加し、全国を0.4ポイント上回った。
- 工業投資は19.6%増加し、インフラ投資は13%増加した。

消費市場

- 社会消費財小売総額は8.9%増加し、全国を1.7ポイント上回った。

- 新業態・新ビジネスモデルは急成長し、大企業によるインターネットを通じた商品小売額は9.5%増加した。

地域協力和開放

改革・イノベーションと協力

- 経済区と行政区の適度な分離改革推進案を導入し、四川・重慶の「ワンストップ手続き」および「証明書不要手続き」のリストを発表している。なお、成渝総合科学センターの建設が開始され、第2弾の双城経済圏産業協力示範園区が承認された。
- 全国一体化計算力ネットワーク成渝国家ハブノードの建設が着実に進行し、「一帯一路」科学技術イノベーション協力区の建設が始まった。

成渝地区双城経済圏の現状と課題

成渝地区双城経済圏は持続的に発展しているが、沿海三大経済圏と比較すると、まだ多くの課題を抱えている。成渝地区の総合力と競争力は東部の発達地域に比べて格差があり、特にインフラ、都市規模構造、産業チェーンの分業、科学技術のイノベーション、都市と農村の融合発展、エコ環境などの面で現れている。一般的に分析される主要な課題は以下のようなものである。

- 都市規模の構造: 成都と重慶の両都市の都市圏人口はそれぞれ1,000万人を超えており、超大都市の範囲に入っている。過去10年間で、周辺地域の人口がこれら二つの超大都市に急速に集まった。例えば、過去10年間で成都の常住人口は581.89万人増加しており、この増加量は深センと広州に次ぐものである。しかし、同時期に四川省の13の市州では人口が減少している。大量の若年労働力が成都や重慶に流入し、周辺地域の人口減少と超高齢化を招いている。
- 産業チェーンの分業協力: 現代サービス業、ハイテク産業およびハイエンド製造業は中心都市に集中しており、周辺の中小都市の産業発展は不足し、雇用機会が限られているため、都市と農村の格差が顕著である。
- 産業レベル: 高技術産業と新興産業の発展が不足しており、優秀な人材の吸引力が限られている。成渝の両大都市は、給与水準や高度な人材を引きつける面で、北京、上海、広州、深センに比べて依然として大きな差がある。

2つの都市で合わせて5,000万人以上の人口を誇る成渝地区は、昔ながら「パンダ」、「三国志」などで日本人からも親しみがあるエリアである。今後、経済発展におけるポテンシャルと期待が大きい中、海外からの投資も沿岸部のみならず内陸地域への注目が高まっている。

速騰聚創RoboSense——自動運転感知ソリューション領域で脚光

社名	深圳市速騰聚創科技有限公司	英語名	RoboSense
代表者	邱純鑫	URL	https://www.robosense.cn
所在地	深圳市南山区桃源街道平山社区留仙大道1213号众冠红花嶺工業南区2区9棟1階		
売上(RMB)	—	従業員(人)	—
登録資本金	54034.4万人民币元		
サービス内容	レーザーライダーハードウェア及びソフトウェアの研究開発企業であり、チップ、レーザーライダープラットフォーム、および認識アルゴリズムの三つのコア技術を通じて、市場に情報理解能力を持つインテリジェントレーザーライダーシステムを提供している。		

Yole Intelligenceの『2023年世界車載LiDAR市場および技術報告書』によれば、世界の自動車用LiDAR市場は今後数年で大幅に成長し、2022年の3.32億ドルから2028年には46.5億ドルに達すると予測されている。

専門の自動車メディアの統計によると、2023年末の広州モーターショーでは、価格が20万元以上のほぼすべての車種がLiDARを搭載していた。例えばAITO M7、Xpeng Motors X9、Li auto MEGA、Luxeed S7、ZEEKR 007などの主要モデルではすべてLiDARを搭載していた。

速騰聚創(RoboSense)はLiDARおよび感知ソリューションに特化したテクノロジー企業で、本社は深セン南山区にある。チップ、LiDARプラットフォーム、感知アルゴリズムなどのコア技術における自主開発を通じて、世界のLiDAR市場のリーダーの一つとなっている。RoboSenseの株式公開資料によれば、2022年の世界のLiDARソリューション市場規模は約120億円で、そのうちLiDARハードウェア市場規模は107億元であった。

市場のパフォーマンス

市場のパフォーマンスに関して、2023年のRoboSenseのLiDAR販売台数は25.6万台に達し、2022年比で349.12%の増加となった。特に2023年第4四半期の販売台数は15.1万台で、前年比545.30%の増加を示している。2024年1月から3月の期間には11.6万台を超え、市場シェアは51.6%に達した。2024年第1四半期の会社総収入は約3.6億元で、前年比149.1%の増加となった。ADAS(高度運転支援システム)の販売台数は約11.62万台で、前年比542.0%の飛躍的な増加を実現した。2024年第1四半期末までのLiDAR累計総販売台数は46万台を突破し、そのうち車載LiDARの累計総販売台数は40万台を超えた。

さらに、世界中で22の自動車メーカーおよびTier 1サプライヤーから71のモデルの量産契約を獲得し、そのうち12社の25モデルで大規模量産が実現した。

競合他社

2023年前三四半期において、競合の禾賽科技(Hesai Technology)は13.438万台のLiDARを納入し、前年比307.9%の増加を記録した。同社は連続4四半期にわたり、収益および納入量で6つの国際上場企業(Luminar, Ouster, Cepton, Innoviz, Aeva, AEye)の合計を上回っている。2023年の同社のLiDAR製品の総販売台数は22万台を超え、前年比1.7倍以上の増加が見込まれている。また、2023年11月までに図達通(Seyond)は高性能LiDAR車載市場での累計納入台数が20万台を突破した。

最新製品の発表

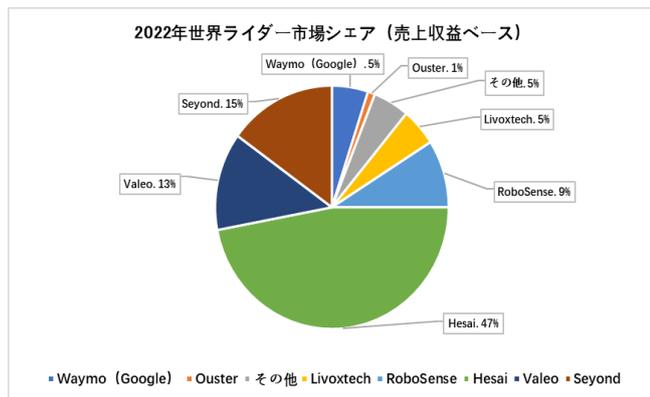
CES 2024で、RoboSenseはMプラットフォームの新製品である超長距離LiDAR「M3」を発表した。「M3」は940nmレーザー技術を使用し、300m@10%反射率の測距能力を実現する世界初の超遠距離LiDARで、0.05° × 0.05°の角分解能による超高解像度の3Dイメージング能力を持つ。従来の1,550nmレーザー技術と比較して、「M3」は体積、コスト、消費電力のいずれも大幅に優れており、高性能LiDAR市場の新たな基準となっている。

* 300m@10%反射率: LiDARが光束を200メートルの距離まで発射し、最低でも10%の光反射率を持つ物体を識別できることを意味する。

* 速騰聚創は現在、三つのレーザーLiDARプラットフォームを提供している。Mプラットフォーム、Eプラットフォーム、およびRプラットフォーム。

また、RoboSenseは2025年第1四半期に高集積、小型の中・長距離車載LiDAR「MX」を発売予定で、価格はわずか200ドルとなっている。これにより車載LiDARの価格障壁がさらに下がり、より低価格の車両での普及が進むことが期待されている。「MX」の発売はLiDARの「千元」時代の到来を示している。

さらに、RoboSenseはロボット市場への積極的な進出を図っており、物流、配送、サービスなどのさまざまなロボットアプリケーションでのLiDARの大規模採用を目指し、市場占有率および利益率の向上を図っている。



出所: Yole Intelligence『2023年世界車載LiDAR市場および技術報告書』、深企投産業研究所整理。

事業と製品

RoboSenseのコア製品はスマートLiDARシステムであり、このシステムは強力な情報理解能力を持ち、自動運転やロボティクスなどの分野で広く使用されている。

自動運転および高度運転支援車両の分野では、RoboSenseは世界初の第二世代スマート固体LiDARを自動車メーカーに提供するテクノロジー企業であり、主要顧客には比亞迪(BYD)、長城汽車(Great Wall Motors)、小鵬汽車(Xpeng)、極氫智能科技(ZEEKR)、ロータス科技(Lotus Tech)およびルシッド(Lucid)などの有名自動車メーカーが含まれている。また、ロボティクス分野では、アリババ(Alibaba)、京東(JD.com)、蘇寧易購(Suning.com)、中聯重科(Zoomlion)などの企業の無人フォークリフト、無人芝刈り機、無人鉱業トラック、パトロールロボットおよび港湾運送車両で広く使用されている。

コスチュームの旅行写真が大人気

現在、中国の各地の旅行名所で大盛況になっているのが、コスチューム旅行写真です。

日本でも京都などでインバウンド観光客向けに着物・浴衣のレンタルを利用して記念撮影するシーンはよく見かけますが、中国では、専門チームによるご当地ならではの変身記念撮影が流行しています。撮影スポット確保から始まり、貸衣装、ヘアメイク、写真補正などのワンストップサービスが観光産業の新しいジャンルまでに発展しつつあります。

中国の観光市場の回復に伴い、個性的な民族衣装と、派手なアクセサリーに濃いめの化粧を施し、観光名所で一瞬で変身を遂げる観光体験が若い観光客に支持され、瞬間に各地で爆発的に広がっています。スマートフォンによる自撮りの記念撮影には満足できず、専属カメラマンによる性能の優れたカメラと照明で本格的な記念写真を残しておきたい、SNSに投稿したいというニーズに応えています。

このブームを背景に、各観光地でコスチューム旅行写真の産業チェーンが形成されています。衣装屋・メイクアップアーティスト・カメラマン・運転手などの雇用が増えるだけでなく、新しい観光消費は、多くの観光地が特別な文化観光ジャンルを作り出す突破口にもなっています。

リサーチ会社が公開した「2023年中国旅行写真産業の分析」によりますと、旅行写真(中国語:旅拍、主にコスチューム旅行写真)は、既に観光産業の単独な市場分野になっています。公開データによると2021年中国旅行写真産業の市場規模は297.3億人民元(約6千億円)に達し、2023年の市場規模約400億人民元(約8千億円)に達すると予想も出されていました。

若者、特に若い女性達にコスチュームの旅行写真が人気が高くなったのは、SNSの影響が大きいでしょう。旅行先でイ

唯来企業管理諮詢(深圳)有限公司
副總經理

姜香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



ンスタ映えの写真を撮り、SNSに公開することで旅行の思い出にもなるし、「いいね」をもらった時には幸福度が向上するのでしょうか。

現在中国で人気があるコスチューム旅行写真を撮るスポットは、北京の故宮(宮廷服装)、雲南省・広西省などの少数民族の特色がある旅行地であります。

一方、旅行写真サービスを提供する業者の競争も激しく、過度な客引きをしたり、一つのスポットに同じコスチュームをした人々が溢れて、景観が異様な風景になってしまうこともあります。日本人は恥ずかしがって、このようなサービスをあまり利用しない傾向があるように感じますが、中国の若者は気にしないようで、衣装を着たまま街中を観光している人もよく見かけます。

観光だけでなく個性的な非日常体験を求めるのは、日本のインバウンド観光客にも共通しているようです。



「福建省泉州簪花」—— 撮影: MICS編集部



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区粤海街道海天二路 19 号盈峰中心ビル 2301
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.jp/>